

図書館だより

第八十四号
令和五年
七月二十四日
富士宮西高
図書委員会



君にはいつまでもただ
理不尽な悲しみに
飲み込まれることなく
優しく穏やかな暮らしの中
笑っていて欲しいから

森七菜「深海」より

イラスト 21HR 武藤 来海

アドラー心理学

校長 新家 輝男

皆さんは、アルフレッド・アドラー (1870~1937年) という名前を聞いたことがありますか？心理学でよく聞く名前は、フロイトやユングではないでしょうか。アドラーはオーストリアの精神科医であり、「個人心理学」を確立した人物ですが、日本では「アドラー心理学」として知られています。

この本との出会いは、私自身が教育相談業務に携わっているときに、様々な心理学の書籍を読む中で、このアドラー心理学は学校教育でも活用できる要素がたくさんあると感じたからです。様々な考え方や理論の中で、特に皆さんに紹介したいのは、「課題の分離」という考え方です。本から要約しますが、「人生の課題は原則として本人が解決しなければなりません。『これは誰の課題なのか』という考え方であり、誰の課題かは最終的に誰が責任を引き受けなければならぬかを考えればわかります。あるいは、ある選択の結末を誰が最終的に引き受けるのかということです。『私は、この「課題の分離」という考え方に会い、課題の分析と最終的に誰が解決するかを考えるようになりました。しかし、「これは、あなたの課題で私の

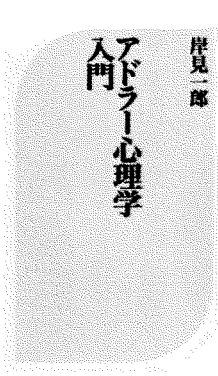
課題ではないから、私には関係ない』では、人間関係が成り立ちません。そこで大切な側面として「勇気づけ」と「見守る」という周りの人がいることが大切になります。この本の中でも、子ども自身が自分の人生の課題に立ち向かっているのかをどのように勇気づけ、見守るのかということも書かれています。子どもと大人という関係だけではなく、これから多くの出会いがあり、対人関係を築いていくことになる皆さんにも活用できる要素があります。

余談ですが、その後、「嫌われる勇氣」「幸せになる勇氣」という書籍にも出会いました。アドラー心理学だけでなく、心理学には人生を前向きに考え行動することができる要素がたくさん含まれています。

皆さんも自分の興味関心がある本だけでなく、様々な分野の本を読んでみてください。たくさん本を読むことで、先行きが見えにくいこの世界で生き抜く力が付くと思います。皆さんが、「一生、学ぶ」ことのできる人間になることを期待します。

アドラー心理学入門

岸見 隆



第7回ビブリオバトルチャンピオン決定戦 学年代表インタビュー

5月18日に第7回3年生ビブリオオチン本決定戦が体育館で開催されました。チャンピオンに輝いた32HR大石光斗さん、準チャンピオンに選ばれた34HR日野美古都さんの2人は、6月2日の紫翠祭文化の部でも、全校生徒の前で堂々たる発表を披露してくれました。



●3年チャンピオン・大石光斗さん
『史上最強の哲学入門』 飲茶・著

発表者の一人である大石さんは、発表を聞いている人達に聞いかけをたくさんして会場を盛り上げていたので、ビブリオバトルのコツを探るためインタビューしてきました。

Q 今回のビブリオバトルを終えての感想を教えてください。
A (文化祭では)緊張のあまり話したいことが飛んでしまっただが、まあまあ

な発表ができたと思う。

Q この本を選んだ理由を教えてください。
A 一回読んでかなり印象に残った本だった。それに加えて他の誰も紹介しない本を紹介したかったから。

Q この本をどんな人に読んでほしいですか？
A 興味はあるけど「哲学」にハードルを感じている人。大昔の天才の考えを知れるエッセイ的な面白さもあるのでエッセイが好きな人。

Q この本を読んで得たものは何ですか？
A 最強の哲学者たちの思考！
—ありがとうございます

●3年準チャンピオン・日野美古都さん
『さんねんな万葉集』 岡本梨奈・著



もう一人の発表者である日野さんにも、ビブリオバトルのコツを探るためインタビュー

タビュをしてみました。

Q ビブリオバトルを終えての感想を教えてください。
A 3年連続クラス代表に選んでいただき、紫翠祭という舞台で最後の発表ができて幸せでした。

Q この本を選んだ理由を教えてください。
A 一つは人間の残念さ加減が傑作なところ。もう一つは絵のインパクトです。

Q この本をどんな人に読んでほしいですか？
A やっぱ「好きな人に踏まれた」と思っている人です。でも世の中には好きな人を踏みたい派の人もいるみたいなので、好きな人を踏みたいと思っている人にもぜひ読んでほしいです。笑ちなみに私は断然踏まれた派です。
—ありがとうございます

●3年生決勝進出者と紹介本は次の通りです
31 HR 赤池鈴我
『残像に口紅を』 筒井康隆・著
31 HR 田中ほか
『7.5グラムの奇跡』 砥上裕将・著
32 HR 深澤和加
『告白』 湊かなえ・著
33 HR 浅倉岳
『余命99日の僕が、死の見える君

Q 今回のビブリオバトルを終えての感想を教えてください。
A 自分の好きな本をめぐれば紹介できたので、とても楽しかったです。

Q なぜこの本を紹介しようと思ったのですか？
A 今まで読んでた本の中で、一番万人受けすると思ったからです。

●1年チャンピオン・古屋樹希さん
『砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない』 伊坂幸太郎・著

5月18日に行われた、1年生の学年チャンピオン決定戦。チャンピオンに選ばれた12HR古屋樹希さんにインタビューを行いました。

●2年チャンピオン・杉山智咲さん
『バイバイ、ブラックバード』 伊坂幸太郎・著



5月2日、2年生ビブリオバトルチャンピオン決定戦が体育館で開催されました。

熱い戦いの末、投票で23HRの杉山智咲さんがチャンピオンに選ばれました。図書委員会では多くの人を魅了する紹介をした杉山さんにインタビューを行いました。

Q ビブリオバトルを終えての感想を教えてください。
A 今までよりもレベルが高く、新鮮で楽しかったです。

Q 本を紹介するときに意識していたことは何ですか？
A 聞く人が飽きないように面白く

西高百選

米山優梨 (国語科)



『外科室』 泉鏡花／著

私自身が泉鏡花という作家に興味を持ったきっかけの作品を紹介します。みなさんは「誰にも言えない秘密」はありますか？時は明治時代、医師である高峰が伯爵夫人の手術を行う直前、夫人は麻酔を受けようとしません。理由を聞くと、「麻酔を嗅ぐと、心に秘めた讒言を言ってしまう」からであり、という始まり。なんと！初めて読んだ時、こんなに美しく愛が描かれているなんて、と強く惹かれたのを覚えています。鏡花の小説は文体が少し特徴的で初めは読みにくいかもしれませんが、繰り返し読むうちに鏡花が綴る言葉の美しさ、文章全体が醸し出す妖艶な雰囲気、文章全体が醸し出す妖艶な雰囲気は短編で読みやすいので、『外科室』は機会に鏡花作品に触れてみてください。

山田恵也 (社会科)



『また会う日まで』

池澤夏樹・著

この前の春休みに素晴らしい小説に出会うことができました。秋吉利雄という実在の人物が主人公です。明治二十五年生まれ、昭和二十二年に亡くなりました。この小説は海軍軍人、天文学者、そしてキリスト教徒として生きた彼とその家族の物語であり(著者池澤夏樹はその末裔)、同時に日本に深い傷跡を残した戦争の物語でもあります。七〇〇ページを超えるこの小説の魅力は短い字数で伝えることは困難です。言えるのは、ぼくはただ夢中になっただけで読み進め、主人公たちの人生に巻き込まれ、もみくちゃにされたということです。最後の五〇ページほどは、終わってしまうのが残念で、何度も本を閉じては結末を遅らせました。ぜひ、生徒の皆さんにもそんな読書体験を共有してほしいと思います。図書館の先生にお願いして購入していただきました。夏休みに読むのにふさわしい重量級の作品です。興味を持ってくださった人は、ぜひ読んでください。

青少年読書感想文全国コンクール
課題図書紹介

『ラプカは静かに弓を持つ』

安壇美緒／著

少年時代、ある事件に遭遇しチエロの弾けなくなった主人公・橋は、深海の悪夢に苦しみながら毎日を生きている。そんな橋に上司からある命令が下される。「自分を偽って音楽教室へ潜入し、著作権法の演奏権を侵害している証拠をつかむこと。」上司の命令を無視する術はなく音楽教室に通うことになった橋は、自分のかつてのトラウマと向き合うことになる。だが、音楽教室に通い始めてみると橋の心情は変化していた。チエロ講師の浅葉の演奏に惹かれチエロの演奏に没頭するようになっていったが、それに伴って罪悪感に苛まれるようになっていく。

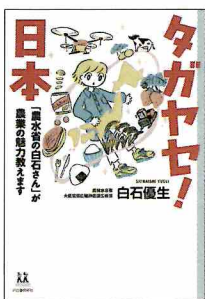
チエロ仲間との交流が橋の頑なな心を開放していく、その過程に人との出会いの有り難さが感じられる作品となつていきます。葛藤から橋はどのような選択をするのか？感動のラストがつづいていきます。(11HR 藤岡真琴)



『タガヤセ！日本「農水省の白石さん」が農業の魅力教えます』

白石優生／著

「白石優生さん」より「BUZZMAFFの白石さん」の方がピンとくる方も多いのではないのでしょうか。そう、あの農林水産省の公式YouTubeチャンネルBUZZMAFF。知らない方はぜひチェックしてみてください。現役官僚である著者が農業の古いイメージを一新させてくれる、まさに目から鱗の一冊。日本の農業の現在から未来まで、わかりやすく解説してあります。文章は語り口調で写真やデータも多く、読書初心者でも楽しめます。本文もさることながらコラムも充実！「A5ランク」や「三元豚」、仕組みがわかれば納得できる食材のあれこれもつまった良書です。読み応え抜群、これはかなりオススメ。(11HR 後藤修一朗)



『昆虫の惑星 虫たちは今日も地球を回す』

アンヌ・スウェルトルップティージェソン／著

『虫けら』なんて言いたくなっ

たら、昆虫が恐竜のはるか以前から地球にいたことを思い出して、尊敬の念を呼び覚まそう。」

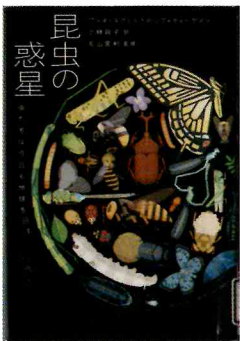
私は虫が基本的に好きではない。しかし本文を読み終えた後、前書きにあるこの一文にとっても感じた。この本は、昆虫の体の仕組みや機能、植物や人間との関係性やバイオミミクリーなどが、9章にわたって書かれている。

彼らの知られざる性質や実態が擬人的に、多面的視点から捉えられており、「ミツバチが花の受粉を手伝う」といったことだけでなく、どれほど沢山の私たちの生活が、ヒトよりもはるかに小さい虫たちの知恵や恩恵によって支えられているのかがわかるだろう。

またこの本には、私たちが授業などで聞いたり、習ったりしたことのあるキーワードがたびたび出てくるため、読んでいて夢中になることができる。

奇妙で興味深い、人々に恵みを与え続ける昆虫たちは『今日も地球を回している』。

(23HR 田嶋悠菜)



読書感想文コンクール

作品募集!

対象 1〜3年生の希望者

用紙 A4サイズの4000字詰原稿用紙

字数 縦書き2000文字以内

タイトル、氏名はマス以外の余白に記入し文字数に含めない

締切 8月24日(木)

英語科・天野先生に提出

対象図書 次のように区分する

①自由読書

自由に選んだ図書。フィクション、ノンフィクションは問わない

※教科書・副読本・雑誌及びパンフレット類は対象としない。

②課題図書

全国コンクール主催者が指定した次の3冊から選択。

『ラプカは静かに弓を持つ』

安壇美緒／著者(あかね書房)

『タガヤセ！日本「農水省の白石さん」が農業の魅力教えます』

白石優生／著(河出書房新社)

『昆虫の惑星：虫たちは今日も地球を回す』

アンヌ・スウェルトルップティージェソン／著(辰巳出版)

提出された感想文は校内で選考を行い、第69回静岡県青少年読書感想文コンクールに応募します。